



大政類典 神武天皇御代卷之五十三

外事部

航海部

二月二十七日 六年

外務卿副島種臣一達

特命全權大使トシテ清國一被差遣候事

外務大丞柳原前光一達

特命全權大使副島種臣清國一被差遣候ニ付為一等書

記官隨行被仰付候事

外務少丞平井希昌

外務少丞鄭永寧一達

特命全權大使副島種臣清國一被差遣候ニ付為二等書

記官隨行被仰付候事

外務省六等出仕林有造一達



特命全權大使副島種臣清國へ被差遣候ニ付為三等書記官隨行被仰付候事

外務少録西川定則 外務省十三等出仕田中好舞へ達

特命全權大使副島種臣清國へ被差遣候ニ付隨行申付候事

海軍省へ達

外務卿副島種臣為特命全權大使清國へ被差遣候ニ付軍艦二艘可差出候事

但委細儀へ外務省へ可打合事

二

三月九日 六年

海軍主計大監河田景福へ達

外務卿副島種臣特命全權大使トシテ清國へ被差遣候ニ付龍驤艦乗組出張被仰付候事

海軍省へ指令正院

海軍主計大監河田景福へ御沙汰書別紙一通差廻候右ハ當人呼出ノ上可相達答ノ處差急候儀ニ付相廻候條此旨相心得達方可有之候也 三月八日 海軍

三

十一